第１４回農業農村情報研究部会勉強会議事要旨(案)

日時： 平成１８年１２月８日（金）15:00-17:00
場所： 東大農学部7 号館A 棟7 階717 号室
出席者（順不同，敬称略）：大政謙次（東大）、溝口勝（東大）、沖一雄（東大）、清水庸（東大）、佐々木健介（東大）、鎌田知也（農水省）、大西亮一（日本水土総合研究所）、加納太郎（NTT ドコモ）、唐崎卓也（農村工学研究所）、栗田英治（農村工学研究所）、大羽泉（ARIC）、吉橋勇一（ARIC）

１．報告事項

文部科学省が運用する「科学技術振興調整費」の平成19年度新規課題の応募を本部会にて検討している。本部会内で良いアイデアがあれば提示して頂く事をお願いした。

２．勉強会

(1) 動画配信による都市と農村のコミュニケーション（唐崎卓也）

- 農業農村情報のコンテンツとして動画配信システムに着目し、これまで実験的に行った事例や調査をもとに、システムの概要や特長、運用上の課題について紹介された。
- 動画編修には多大な時間と手間を要するため、今後、動画編修を行う人材の育成、地域の人材を活用したコミュニティビジネス、専門技術者への外部委託を想定したコンテンツビジネスの成立が期待される。
- ライブカメラを組み込んだ、動画配信システムでは土地改良施設や地域資源の管理だけでなく、防犯や防災といった生活に密着した用途にも活用できる。
- 地上デジタル放送やWeb2.0と呼ばれる次世代Webサービスは双方向の通信が可能な技術であるが、農業農村分野の生産者と消費者、農村と都市間の交流を促進するためのプログラム作りが求められている。

(2) 農村地域の保全・機能評価における地理情報の活用（栗田英治）

- 国土数値情報、農林業センサス、自然環境保全基礎データ、時系列航空写真といった地理情報を用い、農村地域の保全、多面的機能の評価を行った「農業・農村地域の景観と人為的管理の変遷」「生物・生態系保全を目的とした水田冬期湛水の展開と可能性」の２つの事例について紹介された。